

（午後3時20分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番11、12番 堀内君。

〔12番（堀内和久君）登壇〕

○12番（堀内和久君）皆さん、こんにちは。最後になろうかと思えます。答弁次第では早く終わるかもしれませんが、目いっぱいやらせていただきます。

きょうは1日、同僚議員、先輩議員の一般質問を聞いていると、健康に関する、体重の話がちょっと出たので、ちょうど私もこの間、議員になって初めて、5年ぶりぐらいに健康診断に行きまして、体重は111kgやったんですけども、ちょっと肥満に気をつけてというふうに言われたんですけども、意外や意外に数値は何も引っかけからず健康体でございました。血はさらさら、筋肉もぼちぼち、臓器もいけますし、CTの結果も、影もございませんし、これも個人差はございますが、はたごんぼ茶のおかげかなと、そんなふうに思っております。

いつも12月のほうで流行などを口にするんですけども、上半期で申し上げますと、琴バウアーであったり、イチローとか、ちょっとマイナスなことで言うと、不倫であったり、せこいどこかの知事であったりとか、うれしいニュースとうれしくないニュースがあるわけでございますけど、ちょっと二つほど私事で思うのは、まずは、黒河道の世界遺産の追加登録のイコモスの勧告があったということで、すごく、一番最初に一般質問をしたのは11番議員だったと思えます。地元ということ

でトスを上げていただいたので、木下前市長並びに行政、そして一番の大きいのが地元感謝したいと思います。これからの行政の企画力、提案力に期待をしております。よろしくお願いします。

そして、二つ目がイチローですね。4,257本、ヒットの数、世界記録に達成しまして、私も野球をしている1人として感動しました。本市の野球場建設に向けてはあまり関係ない話なんですけども、なぜかどきどきします。イチロー選手のイメージですけども、本当にすごく真摯で、大きなホームランを打つタイプではありませんが、とにかく視野が広く、守備範囲が広い。すごいんですね。足が速い。あまり三振をしない、どんな球にもスムーズにバットコントロールして、出塁してホームを踏む。大きいホームランは要らんかわりに、最終的にスコアボードを見たら、どっちが点を多くとっているのよというのが本来の日本人の野球なんかだと、そんなふうに思います。

本市に希望するのは、市民の思いに可能な限り応え、市長からのサインをスムーズに展開し得点につなげてほしいという、僕の例え話なんですけども、頑張った結果、三振でもいいと思えます。見逃し三振じゃなくて熱の入った空振り三振であれば、僕はいいと思えます。

それでは、そんな気持ちを込めまして、議長のお許しをいただきまして、担当部長に本市発展への千本ノックを受ける気持ちで一般質問をさせていただきます。

大きく二つございます。

一つ目は、少子高齢化の少子化からの市、県でできる子育て支援。二つ目は、高齢者の

ほうの少しの負担を助けてあげる的な質問で
ございます。

一つ目、保育料無償化について。

橋本市は住みたいまちNo.1をめざし、さ
まざまな努力をされていると思います。小・
中学校の医療費無償化については、18歳まで
引き上げてほしいという気持ちはありますが、
厳しい財政事情の中、中学生まで引き上げら
れました市長には本当に感謝しております。

時代の流れとともに社会情勢や教育の変化
への対応、そして所得・景気の向上への取り
組みなど、課題は非常に多くなっています。
近年の人口減少にストップをかけるには、充
実した生活、出会いと結婚、出産と子育てで
あると感じます。4年前にも中学校医療無償
化の関連で質問をしましたが、和歌山県の取
り組みに、紀州3人っこ施策があります。平
成27年度にその内容が充実され、28年には地
方創生によりさらに拡充して、県民の子育て
に手を差し伸べようとしています。本市にお
いては保育料無償化を現実にできないでしょ
うか。

二つ目でございます。人口減少による今後
の、区・班制度について。

市の人口は、市の人口ビジョンの概要によ
ると平成11年度をピークに減少し、今日では
6万5,000人弱に今なっていると思います。6
万5,000人であり、約25年後には5万人を切り、
高齢化率は40%となる可能性があるとのこと
です。

今回の質問は、今すぐどうということでは
なく、3年後、5年後、市内の109の区のあり
方と方向性をお聞きしたい。そして、区内で
の班の見直しと、ここからがポイントなんで
すけども、ひとり暮らしの高齢者の班長につ
いて、市として各部局、総務、福祉、防災観
点からの連携やサポートというのはできない
かをお伺いいたします。

明確なご答弁、よろしくお願いいたします。

○議長（中本正人君）12番 堀内君の質問項
目1、保育料無料化に対する答弁を求めます。
健康福祉部長。

〔健康福祉部長（石橋章弘君）登壇〕

○健康福祉部長（石橋章弘君）保育料無料化
についてお答えします。

本市では、小学生医療費の無償化を平成23
年1月から、中学生医療費の無償化を平成27
年度から実施しており、平成28年度におい
ても9,191万7,000円の予算を計上しています。

また、平成24年度からは和歌山県と連携し、
紀州3人っこ施策を実施しています。これは、
満18歳未満の子どもが3人以上いる世帯で、
3人目からは3歳未満の場合に子どもの保育
料を無料とする制度であり、県と市がそれぞ
れ2分の1の補助をしています。

この施策について平成28年度から和歌山県
では、保育料の無償化の対象年齢をこれまで
の3歳未満から小学校就学前まで引き上げる
とともに、18歳未満の子が3人としていた子
どもの年齢構成の制限を撤廃し、また補助対
象をこれまでの保育園と認定こども園の保育
園児から全ての園児に拡大するというバージ
ョンアップを実施しました。

しかしながら、本市においては、他市に先
駆けこども園の新設、子育て支援センターの
設置、小中学生医療費の無償化等、各種子育
て施策を実施しているため、さらに財政的な
負担が大きくなるという理由から、このバー
ジョンアップ版については平成28年度は実施
しておりません。

平成29年度以降は、財源確保ができれば実
施を検討していきたいと考えていますが、保
育料の完全無料化については、約2億8,000
万円の収入減となるので、現状では難しいと
考えています。

○議長（中本正人君）12番 堀内君、再質問

ありますか。

12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）部長、ありがとうございます。ちょっとなれない形で、僕、おっただら見えないでしょう。すいません、申しわけない。意外に、意外にというのは失礼なんですけど、いい答弁をいただきましてありがとうございます。

要は、第3子の保育料がバージョンアップしているということを受けて、県が2分の1を出すので、市が2分の1を出して保育料無償化、就学前やから6歳までしてあげようやないかという施策に手を上げるか否かのいたってシンプルな話。今答弁にあったように、財政負担、財政難ということを示しているわけですが、最終的には熱のこもったご答弁をいただいたと思いますし、後ろにおられるこども課長なんかも割と馬力のある方ですし、前こども課長なんかもっと馬力があるように僕は思いますので、きょうここにおられるので、後でちょっとご答弁をお伺いしたいんですけども、その前にいくらかかるかというの、全部の保育料無償化というのは、まだちょっと財政難なので厚かましいことを言っているのはようわかっているんです。一応書いただけで、本来ならば平木市長は財源があればしてあげたいと思ってくれていると信じておりますので、今回は、紀州3人っこの施策にのっつた一般質問ということで、3人目、この条件全てそろそろような形になれば財源はいくら要るか、お答えください。お願いします。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）現時点の試算ということでございますけれども、現行の平成27年度実績が1,546万6,000円支出いたしました。今般、もしこのバージョンアップ版にのっていくということになれば、本市の負担

額ベースですけれども、4,748万9,000円を見込んでございまして、増額見込みといたしましては本市負担部分で3,202万3,000円、3,200万円強であろうと推計しております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

要は、財政難ということでワードが出たので、財政課長にお伺いするんですけども、その前に、なぜ手を挙げなかったということも聞きたいんですけども、それはまあそういうことやと思うので、財政課長にお伺いするんですけど、これは、平成27年の2月県議会でこういうのが発表になっていると思うんですけども、ここらは連携の話になるんですけど、こういう話がある、こういう補助金があるということでの協議であったりとか、当然、最終的に財源確保できるんかいよという話とか、そういうのがあったんかどうかというのかな、そこをまず知りたいんです。お願いできますか。

○議長（中本正人君）財政課長。

○財政課長（小原秀紀君）この件についての担当課からの協議ということですが、その制度ができるということですが、概算の経費等をお聞きしたことはありますけれども、その当時は、26年度決算が出まして、かなり財政状況も厳しいということで、財政健全化に向けて取り組む時期でもありましたので、その話は聞きましたけども具体的にやるかやらないかというような、そういう判断までは至っていないかというふうに思っております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

いろんな事情もあるのでわかるんです。しつこい再質問は今回はいたってシンプルに、ちょっと市長にお伺いしたいんですけども、ここはもう市長判断に正直なってくると思う

んです。もう、たればの話ではなくて、僕としたらお願いするとか、あとは財源確保というのはきっと財政課長がどないかしてつくってくれると思うので、市長のお気持ちをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）堀内議員の質問にお答えをします。

できるものならやりたいとは思っています。ただ、地方創生の部分で上げていた中学生医療の部分もだめになりましたし、地方創生の関係も個人に支給するような部分は今後一切認めてもらえないというふうな状況になりましたので、26年度補正では100%補助をいただいて、というふうなことができたんですけども、ここの負担も丸々市にのってくるということになってきます。

その中で、今27年度の決算は思ったよりはよかったというふうに報告を受けていますので、要は、恒久財源をいかにつくっていくか、今年だけやるというわけにはいきませんので、これから予算編成に向けて、3,200万円の金が調達できるということになれば取り組んでいきたいと思っています。何せ来年が本当に厳しい年度になりますので、その中でできるように、財源確保について協議をしながら、最終的に秋ぐらいには決めていきたいなというふうに思っています。

この場で即答せよと言われてしましても、財政上の今年の状況等もありますので、災害が起きるととてもじゃないですけど無理なような状況にもなってきますので、29年度予算に向けて、この財源が確保できるのであればやっていくというふうに考えています。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

最初に市長のお気持ちを聞いておきたかっ

たということで市長を指名させていただいたんですけども、ここでちょっと、また嫌われることをここから言うんですけど、お世話になつとる方に。財源確保というのが、どうしても新しい事業をするには何かを諦めなければならないというのは常識的な話で、もう全議員わかっていると思います。職員も当然わかっておると思います。ただ、財源確保の前に、財政健全化計画にならなあかん状況というのが、みんなに少しずつ責任があるということをおし上げておきたいです。

その上で、僕、予算委員会でもたしか申し上げたと思うんですけども、市長、何で先にしゃべったかというのはそこなんですけど、市長の施策、市長のマニフェストというのが、我慢してでも財政健全化を選んだというのは、僕は一政治家として平木市長は物すごい敬意とか、ほんまに尊敬しとるんです。なかなかそんなんできないことだと思います。今後の橋本市政のために自分のやりたいことを我慢して、後回しにしてでも財政健全化を選んだ。当然、職員の給料に手をつけたことというのはマイナスなイメージがひょっとしたらあるのかもしれないですけども、次世代の人、さらに次世代の人が責任をとるんであれば、どこかで線引きして5カ年、10カ年で健全化して行ってバトンを渡す。

その中でも、僕、個人的議論でいうたら、ここにおられる幹部の皆さんの給料を削るというのは、もう一つ僕、矛盾したことを言うんですけど、あかんと。なぜかという、それなりの市長の側近で選ばれた方なんであれば、やはり前に、14番議員の一般質問にもあったように、号と級の話から入るんですけども、やはり頑張った者がその椅子に座りたい、いつか橋本市をかえるべき権力を持つ椅子であってほしい、尊敬されるべき椅子であってほしい、なりたい椅子であってほしいと、そ

うというのが僕、思うんで、やはり矛盾したことを言うんですけど、財政健全化の前にせなあかんことというのがあったのではないかな。

過去のことを言っても仕方がないので、僕が予算委員会で申し上げたことは、ちょっと間違っていたら悪いんですけど、市長がやりたいことを曲げるというか、我慢してまでやっておるということに対しての責任とか、そういうのはもうちょっとみんなちょっとずつ考えて、6億円の財源確保をするのに10億円つくりにはいかないと、県費、国費で、2分の1、3分の1、市が出さなあかんときが来たときに、地方創生もそうですよね、10分の10やったらみんなとるんです。どこに格差ができるんですか。橋本市No.1になりたいんでしょう、子育てで。やっぱりそこらを考えたときに、10億円ぐらいつくりによく覚悟がなかったら、時間外もしかりですけど、本当に健全化というのは、僕、できないと言うたと思うんです。

やっぱり市長も僕らと同じ、市民から選ばれた政治家ですから、市長のマニフェストというのは、職員の幹部の皆さん、かなえてあげてくださいよ。その上で、こういう補助金が来たときに、県下9市でやっていないのは、間違っていたらごめんなさい、橋本市と岩出市だけだと思うんです。橋本市というのは子育てにやさしいまちNo.1で行くというように、こういう雰囲気ですよね。僕もそう思っていますし、できること全部やっついこうよという形をなぜとれないのか。だから、財政健全化の議論のときに申し上げたことが、今ここに来ているのではないんですか。

僕、きついことを言うているんで答弁は結構なんです。わかってくれていると思いますし、もうこれ以上嫌われたくないと言わないですけど、やはり健全化していくということは、肝に命じていただきたいの、6億円

つくるんやったら10億円、12億円つくりにかんと無理なんです。災害起こるかもしれないですし、何が起こるかわからないです。予測しないことが起こりよるもんなんです。官も民も一緒やと思うんです。だから、そこらを踏まえた上で、ここまで言うたのもう答弁は結構なんで、財政課長にお願いをしたい。何とかして橋本市に住んでよかったまちをつくるという、前こども課長でもあられますし、一番やりたいという気持ちはひょっとしたら1番、2番に思ってくれているかもしれませんで、財源確保の努力というのをちょっと摸索というか、約束していただけますか。ちょっと何か一言、お願いします。

○議長（中本正人君）財政課長。

○財政課長（小原秀紀君）財源確保ということですけども、27年度の決算、この前、出納閉鎖がありまして、やはり基金を潰しての黒字確保というような状況になりました。28年度につきましては財政健全化の初年ということで、平成28年の当初予算は、目標、先ほど6億円というお話がありましたけど、目標が歳出で5億8,800万円のところ、6億3,000万円余りの削減ということで、予算に反映をさせていただきました。

歳出につきましては、予算以上には執行できませんので、それはそれ以上の削減をするということで、先ほどおっしゃられたように財源確保できるよう、執行のほうも抑えていきたいというふうに思っておりますけれども、ただ、歳入のほうで、特に地方交付税等が今年ちょうど切りかえの年になっております。合併の特例の終わる初年度でもありますし、昨年、国勢調査がありまして、その関係で人口が2,700人ほど減っているかと思うんですけども、その影響もありますし、それと、あと臨時財政対策債というのがございまして、これ、交付税の関係でもらえる部分なんです

けど、これも国の計画では16%、本市においては2億円ぐらいの削減になるというようなこともありますので、それらの歳入を見てまだ足りない場合は、さらなる削減というのをしなければならぬんですけれども、財政課といたしましては、先ほどおっしゃられたように、市長の施策を実行できるよう、より健全化に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

いろいろと言って申しわけないです。ただ、僕も市長と同じ、同じと言うたら大変失礼なんですけど、同じ政治家ですから、思ったことはやっぱりやりたいと、やらせてあげたいと。割と、きのう、きょう、一般質問を見ておったら、どっちかという市長に守ってもらうみたいどころが見えます。もっと市長を盛り立てて、盛り上げて、市長、これやろうよ、あれやろうよと言って、ほんで、政策企画室でちょっとフィルターかかるんでしょうか、優先順位というか。それはわかるので、副市長も割と市役所のことは隅から隅までわかっていてくれる方ですし、理事もおられますし、やっぱり和歌山県No.1の市であってほしいということをお願いしまして、よろしく願いしますということで、一つ目、終わります。

二つ目、よろしく願いします。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、人口減少による今後の区・班制度に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（吉本孝久君）登壇〕

○総務部長（吉本孝久君）人口減少と高齢化の中で現在109ある区の将来のあり方と方向性についてのご質問ですが、区や自治会は地域住民の地縁による住民自治組織であると認

識しており、基本的には区・自治会のあり方や方向性については地域住民の総意のもと決定されていくものと考えています。

しかしながら、人口が減少し高齢化することにより区や自治会を構成する世帯数が著しく減ってしまったり、地域に高齢者が増え班長のなり手がいないなど、組織運営上の問題が出てくることも予想されます。

現在も区・自治会関係の相談業務については総務課で担っており、今後相談業務が増えることも予想されますが、相談に来られた場合はより一層真摯に対応できるよう努めたいと考えます。

また、この問題については、区や自治会と密接な関係がありますので、橋本市区長連合会と連携を深めながら取り組んでまいります。

また、福祉行政から、任意団体の中での班長などの役職に係る問題について具体的、直接的にサポートできることはございませんが、もし高齢の方が、ご自身の生活の中での悩み事や心配事があり、窓口へ相談に来られた場合には、その方の抱えている心配事や悩みに耳を傾け、内容によって適切な部署等に丁寧につなぐように心がけてまいりたいと考えます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君、再質問ありますか。

12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

結論から申しますと、国はもちろんのこと、橋本市の人口ビジョンの概要というのがあると思うんですけども、人口減少と少子高齢化の対策の一つとも言える案件であると思います。区の世帯数の動向が推測できているのであれば、指導はできないにしても、当然、任意団体ですから、区の合併というか、歩み寄りというか、連想をさせていかないといけないと思うんです。思っただけは私だけかもし

れないですけども、当然区は地縁団体とか自治組織でありますので、市より誘導とか指導はだめなのかもしれませんけども、最終的に109の区の中で世帯数の少ないであろうところ、また減少傾向であろうところというのは、担当課でわかっていると思います。何か対策というのは考えておられますか。

○議長（中本正人君）総務部長。

○総務部長（吉本孝久君）具体的な対策についてはございませんけども、区長連合会と連携を深めながら取り組んでまいりたいと考えます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

ちょっと政策企画室長に飛ぶんですけども、ちょっと僕のところのプリンターはぼろいんで、ちょっときれいな色と違うんですけど、橋本市人口ビジョンの概要、さっきしゃべったやつなんですけども、これは室長のところから出ているというふうに聞いております。責めるわけではないんですけども、さっきの話もそうなんですけど、橋本市が2060年に4万7,000人程度の人口確保をめざし、確保し、ちょっとプリントが薄い、めざすということやと思うんですけども、歯どめをかけるということやと思うんですけど、それはもうわかります。

だんだん減ってきて4万人を切るであろうやさかいに、ここら辺でとめる目標を設定して、25年後、50年後というふうに試算しとるというのはわかるんです。そこまできっちりつかんでいるのであれば、将来の人口推計というところ、この下にあるんです。保育、教育、地域経済、福祉医療などの他方面で影響って、ここまでわかっているんやったら、今、企画経営室がなくなったので、ちょっと僕もどない聞いてええかわからへんのですけど、割と中枢におるんであれば各部署と連携して、例

えば、福祉に連携して、もうじきこの区はこうなるんじゃないかなとか、そういう連携の協議とか、これをつくるだけじゃなくて、これをつくって数年後は橋本市がどうなるさかいに対策をせよとか、そういうふうな議論というのはないんでしょうか。お願いします。

○議長（中本正人君）政策企画室長。

○政策企画室長（上田力也君）まず、この橋本市の人口ビジョンというのは、これをつくった理由というのは、基本的にこの後ろに橋本創生総合戦略というものがございます。この人口ビジョン、並びにこの総合戦略というのは、2年前の平成26年の11月から、本市の若手職員によるプロジェクトチームというのを発足しつつ、その一方で、庁内で橋本創生本部会議と、これは市長をトップに各部長で構成するんですけども、昨年10月に策定するまで8回ぐらい、もう二月、一月にいったんぐらいのこういう頻度で、この人口ビジョン、並びにこの人口ビジョンを見た上で、この5年間、どういう戦略を打っていくのかということについて議論をして、最終的に審議会の皆さまの意見も聞きながら、総合戦略を策定したという経緯がございます。

したがいまして、各担当課の方もこういう人口、右肩下がり、少子高齢化、高齢化率の上昇というのは十分に理解をさせていただいているということで、今後各それぞれの部署におきまして、こういった人口ビジョンに基づいて、いろいろ検討を今後深めていっていただけるのかなというふうに思っております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

ということは、言葉悪いんですけど、目的が総合戦略という、地方創生という文言が後ろについているので、なかなか一石二鳥じゃないですけど、これをつくったので、ついででうまいこと連携はできていなかったように

僕は感じるんです。責めるわけではなくて、今から3年後、5年後に対して今後やっていくてくれるということなので、もっと横のつながり、先ほどの議員もおっしゃっていましたが、結局は官と民の違いというのは、縦横斜め、よく経済推進部長が言いますが、点と点を線で結んで面にすることが結局できていないのかなというのをちょっと感じます。

優秀な職員がたくさんいらっしゃるのに、大変もったいないなって。せっかく集まったのであれば、もう一步踏み込んだ、一生懸命頑張っておる人やったら、市長がカバーしてくれるでしょう。判をついて前へ上がってきたのであれば、萎縮してはいかんで、前へ出れ、前へ出れ、頑張れと言うているんでしょう。でも、そうでない人は、別にかばう必要はないと僕はないと思います。市長はやりたいことを一生懸命、熱の入った人はきっと手を差し伸べて、頑張っておる人に対するの評価というのは、橋本市の大事な財産の一つが職員であると僕も思いますので、今後の行政展開というのを期待します。

ちょっと話が戻るんですけど、総務部長。今すぐどうのというのはないんですけども、やはり5カ年ぐらいかけて方向性をお互いに、その区と決めていかないと、区内の事情や区費どないするんやとか、いろんな約束事がどうのこうのって、ある日突然、もう合併やでとそんなふうになってから協議会を立ち上げてしとったら、また3年、5年かかったら、高齢化なんでしょう。やっぱり先のことを考えて歩み寄りを進める。進めるというのは任意団体なんでいけないかもしれませんけども、やはりこういうデータが出ているんだよということをもっと区長さんなりにおろして、お互いの区は、うち、もう何十世帯しかないなとか、区長が一番わかっていると思います。

そういうのもあるんで、早期の実現ではなくていいので、区や自治会と対話というのが必要大であると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中本正人君）総務部長。

○総務部長（吉本孝久君）区・自治会の今後の方針は先ほど答弁しましたとおり、区・自治会で決めるものであるというふうに考えております。しかしながら、自治会との対話はこの問題だけではなくて必要なものと考えておりますので、今後区長連合会との連携を深めていきたいと思えます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

僕は必要であると思えますので、強く要望させていただいて、次に移らせていただきます。

区の話はそれで終わったんですけど、今度、区の中ですね。一つの区の中の何班って、班長というのが当然あるんです。皆さん、橋本市民であればわかると思うんですけども、班長も班の中も同様であると思えます。その中で、班長についてでございますが、当然、何々区の第10班とかそういうのがあるとすれば、だいたい10軒から30軒くらいで構成されているのかなと。東西南北、地域性もありますので、ちょっと密集しているところもあれば、いろいろあると思うんですけども、本市において、ひとり暮らしのお年寄りというのかな。ちょっと話に入る前にお聞きするんですけど、後期高齢者、75歳以上のひとり暮らしの世帯数というのはご存じですか。教えてください。

○議長（中本正人君）総務部長。

○総務部長（吉本孝久君）たしかはつきりと数字は出ていませんけれども、3,000人程度であったというふうに記憶しております。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

僕も同じ意見でございます。だいたい調べ

たら、ここ5年ぐらいで前期高齢者と後期高齢者の数がひっくり返るところ辺の年度が多分あると思うので、恐らく3,000人、3,000世帯ぐらいというのが正しい答えやと思います。今後の体制ですよね。総務部長には、そこまで今後やっていただくということを要望して終わるんですけども、今後はちょっと福祉と防災も一応お聞きするという通告でしたので、ちょっとごり押しで福祉に聞くんですけども、ひとり暮らしの後期高齢者75歳のおじいちゃん、おばあちゃんに対して班長させというのは、これ、結構しんどいことやと思うんです。

総務からも何らかのアクションというのは、区長さんにアクションを起こして、ちょっとそこのおばあちゃん、班長は飛ばしたろうやないかとか、そういうことを市から言えないにしても、やはり無理なものは無理ですので、そこら福祉の観点から見て、いきいき長寿課であったりとか、包括であったりとか、いろんなところでいろんな情報をつかんでいるのはそちらの課かなと思うので、僕の提案を実現に向けて、何か思いというかありますか。ちょっと、もしあったら結構です。なかったら次の質問します。

○議長（中本正人君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）ご質問のご事情等々は、地域の事情、非常によく理解できております。私ども、昨年度末から本年度初め、3月末から4月初め頃に、実は地域包括ケアシステムに向けた意見交換会というのを各地区回っております。その中で区長にもご出席いただいております。

そのお話の前段で、先ほど来お話のある少子高齢化、それと人口の減少等々で、各地域ごとの今後の予測でありますとか、高齢化率であるとかのデータもお示しております。ただ、あまりそれを前面に出しますと暗い話ばかりになってしまいますので、さらっとご

説明差し上げておるところですが、それぞれやはり地域では皆さん、ご理解はいただいているのかなと思います。

私どもの目的が今後の地域包括ケアシステムの構築に向けてということで、福祉の立場からいいますと、介護、医療、予防、住宅、生活支援、そのうち生活支援の中に、地域での今後高齢化が進んでいく中で、人と人とのつながり、あるいは地域での支え合いが重要になってきますというふうなご説明を差し上げております。そのような一定の情報提供等々をさせていただいておるんですが、今お話の班長となると、まさに地域のコミュニティの組織の問題になってきますけれども、いわゆる地域の支え合いという観点から、例えば、班長のお仕事を班員の方々が一定協力し合うとか、そういうふうな方向で今後の状況を見据えて対応していただけたらな、できないは別にして、私どもはそういうふうな考えてございます。

○議長（中本正人君）12番 堀内君。

○12番（堀内和久君）ありがとうございます。

僕、それでいいと思うんです。それを危機管理室は最近できたのでちょっと置いときますけど、総務と福祉の連携でそういうことを連想させていただいて、お願いできる部分、グリーゾーンに入るんかもしれません、任意団体の中のさらなる班なので。だから、そこら辺を少子高齢化、特に高齢化の中で出てくるデメリット、回覧板1個、広報1個を配っておって、つまずいてこけて骨折ったって、つまらん話になるので、支え合いという言葉が出るのであれば、やはり福祉の観点からそういうことを区の代表的な方をお願いするとか、若い人がかわりに飛ばして、もうおばあちゃんとか班長せんでええよと、うちやるよとか、その中でさっきの区の話にもあったんですけども、だんだん空き家とかも増えてま

いますので、やはり班の中での合併というか、そこら辺も視野に入れて、福祉になるのか総務になるのかわかりませんが、やはり高齢化対策の一環として5カ年、ちょっと10年は長いと思うんですけど、3年、5年かけて何らかの形として、その班に歩み寄っていただきたいということ要望させていただきます。

あと、せっかくなので、これらが速やかに行った場合、危機管理監なんですけど、質問ではないんです。それらの連携が少しでも改善、何かしらあって、その負担が減り速やかな毎日であったならば、災害時、万が一のときでも横のつながり、支え合いが深まって、減災につながるというのも一理ありますよね。答弁じゃないんですけど。速やかにいっていったら、結局、減災ということになりますよね。それだけを僕、今回言いたかったんです。だから、そこら辺も、デメリットを摸索してピンチがチャンスになるきっかけでもあると思うんです。

最後になるんですけども、さっきのちょっと答弁があったと思うんですけど、適切な部署に丁寧につなぐというのは行政サービスの展開でいうたら、これは僕から言わせたら当たり前のことなんです。改善というか、速や

かにいく試行錯誤というのを頑張っていたきたいと思います。人口減少に歯どめをかけるといっても大事な何かかもしれませんけども、時の流れとか、時代の流れというのにはやっぱり逆らえない部分ってあります。少子高齢化、これ、とめられない部分、とめれるんやったらもっと早く手を打てとと思うんです。これ、もう社会情勢の一環であると僕は思います。

やはりそういうのも踏まえた上で、時の流れに身を任せて、ある程度の人口減少の努力も必要かと思うんですけど、最終的に人数が減ってきてても、やはりその流れを緩やかにするとか、緩和するとか、接する人たちの穏やかな気持ちというのも、やはりサービス向上の一つであるというふうに僕は考えておりますので、そこら辺はやはり市長の思いにもつながることであろうと思うので、財政難であれば財政難を感じさせない思いやりの行政サービスということで、ちょっときれいなことを言うて終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

○議長（中本正人君）12番 堀内君の一般質問は終わりました。

この際、4時10分まで休憩します。

（午後4時1分 休憩）